

仙

台で広がりみせる。

(株)清月記が本格導入へ

遺体を保存・修復する技法「エンバーミング」が、仙台に上陸、広がりをみせていく。仙台市の冠婚葬祭業の清月記株が社内での体制を整え、「遺族のグリーフ(悲嘆)ケア」に向き合う。

遺体保存・修復 「エンバーミング」

阪神・淡路大震災時 国内で注目を集める

エンバーミングは、遺体に防腐殺菌消毒処理を施して感染症などを防ぎ、長期間、遺体を衛生的に保存する技術。遺族の意向に沿って、事故などによる遺体の損傷や長い開病による顔や身体のやつれなどを一定程度整え、顔色を生前

に近い姿に戻し、化粧などをを行う。

1974年、川崎医科大学で死体遺体の正常解剖のための保存にエンバーミング技術を導入したのが日本での始まりだが、エンバーミングが国内で注目を集めたのが、1995年の阪神・淡路大震災だと言われている。外国人エンバーマーによって修復・保存された遺体の姿は、遺族の悲嘆を和

らげるグリーフケアにもつながった。

世界的に見ると、エンバーミングの起源は、紀元前3200年のエジプトの第1王朝にまでさかのぼる。よく知られている王族の死者をミイラにする処置だ。当時は防腐のために樹脂が用いられ、樹脂を表すbalmという言葉がエンバーミング(embalming)の語源になった。

その後の第2期(～1861年)がヨーロッパでの広がり。当時の医学校では、遺体の腐敗が進んでしまうため時間をかけた解剖を行なうことが出来なかつたためエンバーミングを導入、そのことで細部まで解剖的研究が可能となり、医学の発展に大きく貢献した。

医学のためのエンバーミング

技術から葬儀を目的にしたものに移つたのが、アメリカの南北戦争だった。戦死者の葬儀を地元で希望する方が多く、エンバーミングは戦死者を遠い故郷まで送り届ける保全手段として行われた。暗殺されたリンカーンの顔が教科書にも掲載されているのは、エンバーミング技術のおかげである。

今や北米では8割以上がエンバーミングされ、葬儀の標準となつていている。

日本では、1988年、日本初のエンバーミングセンターが埼玉県に開設され、日本人の民間人を対象にした最初のエンバーミングが行われた。その後、医学者や法学者と葬祭事業者による日本遺体衛生保全協会が作られ、95年の阪神・淡路大震災のときエンバーミング技術のおかげでもある。

今や北米では8割以上がエンバーミングされ、葬儀の標準となつていている。

エンバーミングって何?

その起源はエジプトの有名なミイラにさかのぼるが、ヨーロッパでの医学の発展のための技術から、葬儀を目的にしたものに移つた大きなキッカケとなったのがアメリカの南北戦争。

戦争終結後、1865年に暗殺された第16代大統領リンカーンもまたエンバーミングされ、遠く2600キロ離れた故郷に運ばれる途中、遺体を見て別れる人々に大統領は生前のままの姿を保っていたことで、その効果を強く印象づけた。

北米ではいまや8割以上がエンバーミングされ、葬儀のスタンダードとなっている。遺体の海外輸送や、遺体の公衆衛生面での安全な保全のための標準的処置として認知が広がっている。

仙台ビジネス最前線



青葉区本町の仙台中央斎場 清月記内に開設された清月記エンバーミングセンターで、エンバーミングに用いる機器類を確認する釜石将崇氏。円内写真は2月からエンバーマーとなった山口貴美子さん



西村恒吉
事業推進室統括部長

マーなどによる支援活動を展開する。今では全国30都道府県に87エンバーミングセンター、事業会社は27社にのぼっている。

エンバーミングの特徴は、感染防御、防腐効果、修復効果の三つ。病気などでやつれた顔、事故や災害で損傷した場合などでも、エンバーミングによって目元や頬などを自然な表情に修復し、生前元気だった頃の顔を取り戻すことが出来る。

(株)清月記では23年8月、青葉区本町の葬祭会館内に専用の設備を備えたエンバーミングセンターを開設、エンバーマーと呼ばれる有資格者を男女2人を配置した。これまで累計で約230件を受け入れた。

これまで宮城県では他に納棺専門業者1社が手がけるが、認知度も含めエンバーミング空白地帯だった。月90の遺体受け入れを清月記が可能としたことによって、エンバーミングが急速に広がりを見せることになってきた。

同社エンバーマー第1号となつた釜石将崇同社ケアサポート部課

感染拡大時でも安心してお別れができる

長はこれまで同社の納棺師として活躍していた。同氏は関東の専門学校で2年解剖学や衛生学などを学びエンバーマー資格を取得した。「納棺師による一般的な遺体保存とは異なり、顔や手に触れるなどスキンシップしやすく、最大50日間の保存が可能になる。ご遺体とのコミュニケーションを良くすることを常に考えながら施術している」と語る。2月からは美容師だった山口貴美子さんが新しく加わった。

西村恒吉事業推進室統括部長は、東日本大震災後、犠牲者の多さに火葬が追いつかない事態が生じ、同社は石巻市で仮埋葬、掘り起こしにも関わった。その経験から、エンバーミングの内製化を提案してきた。同社では2016年から情報収集などをスタート、19年に実施を決め準備を進めてきた。

同社の菅原裕典社長は「故人のお顔が綺麗になつて良かつたと喪主さまが感じていただけるサービスがようやく出来た。新型コロナのような感染拡大時でも安心してお別れが出来、故人との時間を過ごせる」と語る。同社のエンバーミング料金は18万円から。

お顔が綺麗になつて良かつたと喪主さまが感じていただけるサービスがようやく出来た。新型コロナのような感染拡大時でも安心してお別れが出来、故人との時間を過ごせる」と語る。同社のエンバーミング料金は18万円から。